



韓国の絵本事情

ファッションやデザイン、エンターテインメントが日本で大人気の韓国。すぐお隣の国ですが、その絵本事情は日本とちょっと違うようです。絵本の歴史から近年の様子まで、データと共に探りました。

2000年代から絵本事情が変化

韓国の絵本の歴史は、1960年代に昔話絵本が単行本として出版されたことから始まりました。それ以前は、本や児童誌に子ども向けの挿絵が描かれていた程度でした。その後、80年代の全集絵本の時代、90年代の創作絵本の時代を経て育った世代が親になって、絵本の文化が成長しました。

『韓国絵本年鑑2022』によると、21年に韓国で発行された創作絵本は557点です(翻訳出版された外国語絵本を除く)。現在、絵本を発行する出版社は645社、作家はおよそ2,000人という推定値があり、新人作家の登場が活発です。主に外国の絵本を翻訳していた出版市場の雰囲気が変わったのは00年代以降で、韓国の絵本は急速な成長を遂げています。20年に人気作家のベク・ヒナさんがアストリッド・リンドグレン記念文学賞を受賞し、22年にイ・スジさんが国際アンデルセン賞を受賞するなど、国際的に注目される絵本作家も増えています。



1. 2014年に韓国初の大型「絵本図書館」として設立された「順天市立絵本図書館」。
<https://library.sunchoon.go.kr/pblibrary>
 2. 2022原州絵本プレビエンナーレ会場の様子。
<https://www.jungle.co.kr/magazine/204693>



1



2



3

それにとどまらず、江原道原州市は本格的な「絵本の都市」を標榜しました。きっかけは市民団体の活動です。絵本作家で翻訳家のイ・サンヒさんが04年に「あられの花絵本バス」(図書館バス)を始め、14年に社会的協同組合の「絵本の都市」を発足させました。19年には原州市が韓国政府の文化都市に指定され、ユネスコの創造都市ネットワークにも加盟し、絵本をテーマにした活動が活発です。原州市絵本センターも運営しており、2年間のプレビエンナーレを経て、今年から「絵本ビエンナーレ」を開催します。また、全羅北道全州市では、昨年「全州国際絵本図書館展」を開催し、今年も5月に開催予定です。そして、韓国政府は優秀な絵本作品の海外進出を助けるために「今年の絵本大賞」を新設すると発表しました。

それでは、絵本の出版市場はどうでしょうか。韓国に最初の絵本専門出版社「ポリム」が設立されたのは76年です。90年には最初の絵本の書店「チョパン」が登場します。

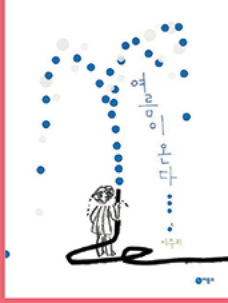
子ども専用書店&図書館

現在、絵本を専門に扱う書店は全国に50軒余りあり、最近絵本カフェが全国各地にできています。乳幼児向け絵本のベストセラーは、大人の本のように頻繁に変わらず、長期間売れ続けます。昨年の絵本ベストセラー上位10作のうち、ベク・ヒナさんの作品が3作も入るなど、特定の作家の人気が高いです。

絵本事情と関連して、市民読書団体が自治体と共に作る子ども図書館「奇跡の図書館」の設立、そして、赤ちゃんに絵本をプレゼントする「ブックスタート」の活動も大事です。「奇跡の図書館」は、03年に1号館が設立されて以来、現在16館が全国各地で運営されており、3館が設立中です。また、全国では「奇跡の図書館」を含め105館の大規模な子ども専用図書館が運営されています。子ども専用図書館で最も重要なのは、いうまでもなく絵本です。全国に14館ある「英語図書館」でも英語の絵本は必須です。



4



5



6



ソウルにある「絵本の本屋ゴムゴム」の外観と内部。

全国の自治体の図書館で赤ちゃんや子どもに絵本をプレゼントする「ブックスタート」活動は、イギリスや日本の先行事例に刺激を受け、03年から始まりました。自治体が、0〜3歳、3〜5歳、5〜7歳向けで年齢に合う絵本を2冊ずつ子どもにプレゼントします。ブックスタート・コリアで絵本リストを段階別に20冊前後厳選し、その中から自治体が2冊を選択します。

韓国らしい独特な風景は、「絵本全集」の出版が盛んな点です。出生率の低下が深刻で子どもの教育に過度に熱心な若い親たちは、多様な教育目的の全集を子どもたちに与えることをちゅうよしません。100冊以上のセット絵本の全集があるかと思えば、60冊以上の英語絵本の全集もあります。

絵本は、絵だけでなく子どもと大人の心を一瞬にして結び付けてくれます。世代を結び、国境や言語の壁を乗り越えて、無限の感動と想像力を与えてくれます。韓国人は、そういう「心の出会い」の架け橋の役割をする絵本が大好きなのです。



「絵本博物館」はオンラインでのみ運営され、韓国の絵本、翻訳の絵本、原書の絵本、全集の絵本など、計27,561点を紹介する絵本情報の宝庫。新刊、国内外の受賞作、機関別の推薦作など、多様な情報を知ることができる。

<https://www.picturebook-museum.com/user/index.asp>

オススメ絵本

1. 『백두산 이야기』
 (山になった巨人 白頭山ものがたり)
 류재수 지음 作
 리유・체스우작『山になった巨人 白頭山ものがたり』(1988年)は、本格的な韓国創作絵本の出発点といわれている。30年以上前に出版された創作絵本の中で唯一、絶版せず現在も販売されている作品だからだ。韓半島(朝鮮半島)で最も高い山である白頭山を素材にして韓民族の神話を描いた絵本だ。
2. 『강아지똥』(こいぬのうんち)
 권경생 글, 정승각 그림 作
 『こいぬのうんち』(1996年)は、韓国を代表する童話作家のオン・ジョンセン氏が1969年に書いた童話を絵本用に書き換えた130万部以上のミリオンセラーだ。見栄えの悪い存在でも、誰かにとっては必ず必要な存在になれるというメッセージが世代を超えて共感を得ている。
3. 『구름빵』(雲パン)
4. 『알사탕』(あめだま)
 백희나 지음 作
 『雲パン』(2004年)と『あめだま』(2017年)は現在、韓国で最も人気の高いベク・ヒナ氏の代表作だ。ベク・ヒナ氏は絵を描かず、さまざまな材料で立体感のある人形や物を作り上げ、写真に撮って絵本に収める独特の作業で有名だ。
5. 『여름이 온다』(夏が来る)
 이수지 지음 作
 2022年に「国際アンデルセン賞」を受賞したイ・スジ氏の絵本『夏が来る』。
6. 『북스타트 가이드북』
 (ブックスタートガイドブック)
 『赤ちゃんは本が好きです』をキャッチフレーズにした韓国の「ブックスタートガイドブック」(保護者向け)。

text & photography 白源根(本と社会研究所代表)